

校長だより

～織部山つれづれ～

その2

緑の美しい季節になりました。

大東町にある「まるこやま公園」から見た大東高校も、山々の緑に包まれています。

通勤の途中の景色も少しずつ彩がはっきりしていくように感じます。その通勤の途中でのできごとです。

歩行者用の信号が青に変わって横断したのは、近くにある海潮うしお小学校の生徒さんたちの集団登校の列でした。入学したばかりと思われる1年生も混じった、6~7人ぐらいの列が渡りきった直後のこと。最後尾の女子生徒さんが車列に向かって深々とおじぎをしたのです。しかも、左右それぞれの車線の車に向けて。2回とも実に清々しく、そして心のこもったおじぎでした。車側は赤信号だったので止まって当然だったのですが、おじぎをされて、止まったことが何か特別のことであったかのように思わせてくれたできごとでした。そして、自分自身、清々しく1日を始められそうに思ったできごとでした。

大東高校の生徒は挨拶をよくするといわれます。先日も地域の方から大東高校の生徒は挨拶をよくすると連絡をいただきました。また、卒業して50年になる卒業生の皆様がおいでになった時にも、「夕方、部活動が終わって帰る生徒たちだと思いますが、いつもよく挨拶をしてくれます。今日はぜひこのことを伝えたいと思ってきました。」とおっしゃってくださった方がありました。

本校のあちらこちらには教育学者の森信三氏の言葉である「時を守り、場を清め、礼を正す」の言葉が掲示してあります。そして、その言葉が生徒たちの生活の「当たり前」になるようにとの願いをもって指導が引き継がれてきています。



挨拶をすることは大東高校生にとって「当たり前」になりつつありますが、その「当たり前」に心を込めることで、あの小学生のように人を感動させることができる。そんな挨拶のできる大東高校生であってほしいと願うとともに、広い世の中に出たときにも、気後れすることなくこのすてきな「大東スタンダード」の実践を続ける力を培っていきたいと思っています。

頑張れ!! 大東高校生!!